

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 2月分 各業界からのコメント

◎建設業

- ・コロナ次第で変化する。
- ・コロナウイルスの影響がまだ続いており、昨年と同じような推移をしている。
- ・コロナ前より悪化している。
- ・オミクロン株の感染急拡大により、社員の家族が濃厚接触者になるなど、影響が出てきている。
- ・一人でも出社できない社員が出ると、仕事の進捗に大きな影響が出てくるため心配。
- ・オミクロン感染を含むコロナ禍第6波の感染、濃厚接触情報は出始めるも限定的。
- ・在宅を含め、クラスターを発生させぬよう予防対策に万全を期している。
- ・政府の緊急提言に基づく総合評価落札方式の賃上げ加点措置対応が業界内で急がれているが、行政運用が変化しており、慎重に対応中。
- ・コロナ禍の影響ですでに廃業を余儀なくされる顧客企業が数件発生しているが、逆に売上を大幅に伸ばしている顧客先もある。
- ・売上増としている顧客への提案営業に今まで以上に力を投入し、全体の減収分をカバーしている。
- ・世界的なコロナ感染者の拡大・増大により、海外からの部品供給が滞っており、注文から商品が届くまで数ヵ月かかっている状況。
- ・ガス給湯器・温水洗浄便座などの工業製品が影響を受けており、工事受注に影響が出ている。

◎製造業

- ・電気電子部品の品不足・長納期化が特に目立ち、部品が一点入荷しないために客先に納期延長をお願いせざるを得ない場合がある。
- ・令和2年度からのコロナの影響で、酒造タンク、半導体設備の業界が忙しくなっている。
- ・ただ、短納期、材料の高騰、在庫薄でスムーズに仕事が進まない。
- ・人材不足はこれからも続くと思われる。根本的に人を増やすことを、国、社会、一人ひとりが考えていくべきである。

◎卸売業

- ・まん延防止等重点措置の発令に伴い、回復傾向に見られた外食需要も減少し、例年売上が少ない2月への業績の悪化が懸念される。
- ・原材料高騰と品薄が止まらない。
- ・中国で生産している原材料の輸入が止まり、使用している製品が高騰及び入荷の見通しが立っていないため、代替品の争奪戦になっている。
- ・公共資材卸売りにつき、公共工事発注数が前年比減少傾向にある。

◎小売業

- ・オミクロン株、まん延防止等重点措置による影響がある。
- ・まん延防止等重点措置がとられてから自粛ムードがあり、来店客が減少している。3回目接種が進むか、コロナの感染者数が減らないと売上の状況は良くならない。

- ・先月からのオミクロン株の感染急拡大及び新潟県における初のまん延防止等重点措置の適用で来店客数が大幅減となり厳しい状況が続く。
- ・3月は人が動く時であり物も動くため、ギフト需要を含め売上は2月より上がる予測であるものの、今後の新潟県内及び全国の感染拡大もしくは、ワクチン接種に伴う収束状況によっては大きく変わる可能性大である。

◎サービス業

- ・コロナウイルス感染者拡大に伴うまん延防止等重点措置の影響が出ている。
- ・有権者の言葉を気にするあまりコロナ対策が慎重になりすぎている。景気に対する対策が後手後手になり、経済が回らなくなることが懸念される。
- ・県外への外出規制が相当大きく影響し始めている。なかなかリモート化が進まず、顔を見て商談するため今後の改善は至急の課題と認識している。
- ・コロナ感染、まん延防止により、人の流れが止まってしまった。福祉関係のため感染対策はしっかり行っているものの、家族からの感染で濃厚接触になり出勤できない職員もいるため業務も圧迫されている。
- ・入居に関してもあまり動きが見られていない。施設の入居者がコロナにかかった場合、施設内療養を基本とする話があった。施設の種類によっては医師もいないため難しい問題である。
- ・年末年始にはコロナ罹患者数も減少傾向にあったが、オミクロン株による再度の爆発的な増加により、先行きが不透明になった。大きな経済政策が必要だと思う。
- ・感染防止対策の一環としてテレワークを推進しているが、家庭内感染が増加しているため、濃厚接触者の情報把握が難しくなっている。年度末の繁忙期を迎え、就労不能者の増加が懸念される。
- ・毎年1、2月は売上の伸びない月で、今年も同様1月と2月の売上が低い。3月でどうなるか、オミクロン株など不安が多い。
- ・まん延防止等重点措置が発令されて時短営業、アルコール類の提供休止のため売上が減少している。
- ・今後は人手不足、賃金の上昇、食材・商材の価格高騰で収益に大きな影響が出る可能性がある。
- ・自助努力にも限界がある。長期の視点で見ると国のエネルギー・食料・資源の安全保障を考え実行しなければ国民の生活は危ぶまれる。
- ・爆発的なオミクロン株の拡大で人流が無くなり、売上が激減。さらに貴重な従業員が濃厚接触者と判定され事業の継続にも影響が出てきている。
- ・2月中にはオミクロン株は落ち着くと想像しており、その後は回復に向かうと考えているが、限界に近づいていると、痛感させられている。
- ・今できることを最大限実施し、いつか回復期に向けて万全な体制を準備していきたい。
- ・オミクロン派生株の発生から、これまで回復気味であった景気・人流などが一気に落ち込んだ。
- ・燃料などの自動車関連購入品が高止まりで推移しているため、厳しい経営を強いられている。
- ・燃料価格の高止まりが続き、経営に大きなダメージが生じており、長期化が不安。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、イベント関係が自粛となり厳しい状況になっているが、年度末を迎え最終決定を待っていた案件が決まり大型の案件がいくつか進んでいる。